

立山町

富山県立山町は、北アルプスを縦走する観光ルート「立山黒部アルペンルート」の起点である。アルペンルートを訪れると雪をかぶった峰々や深い溪谷、黒部ダム of 巨大なコンクリートアーチなどを眺めることができる。春先のハイライトは「雪の大谷」で、高さ 20 メートルにもなる雪の壁が車道を囲む。

富山地方鉄道の終着駅である立山駅周辺は、アルペンルートへの旅の拠点として機能している。レストラン、ホテル、伝統的な旅館などがあり、立山の地質や文化を紹介する博物館もある。落差 350m で日本一の高さを誇る称名滝も立山駅からアクセスしやすい。

しかし、立山町はアルペンルートの入り口という以上の存在である。常願寺川に沿って、肥沃な富山平野の中央部から飛騨山脈まで広がる人口約 2 万 5 千人の自治体である。立山町にそびえ立つ 3 つの頂を持つ、最高峰が標高 3,015 メートルである立山連峰は、この地域の名前の由来となった。立山は何千年もの間、神聖な山として考えられてきて、今も巡礼者や登山家の間でよく知られている。

伝統的な山岳信仰の詳細を学びたいなら、立山駅から常願寺川沿いに下ったところにある立山信仰の中心地であった芦峯寺の集落へ。立山博物館があり、この地域の社会、宗教、環境の歴史を詳しく紹介している。

富山平野の端には岩峯寺の集落があり、立山の神を祀る雄山神社 前立社壇がある。車で約 20 分のところには、キャンプ場、温泉、庭園、遊具、さまざまなスポーツ施設を備えた家族フレンドリーな森林地帯、グリーンパーク吉峰がある。